

光城山 1000 人 SAKURA プロジェクト



光城山（ひかるじょうやま 安曇野市 通称「昇り龍」: 登山道沿いを山頂に向かって徐々に開花する）



登山道



桜の間から安曇野の街と北アルプス常念岳

光城山1000人SAKURA プロジェクト
（以下、安曇野市公式ホームページより）

プロジェクトに込めた思い

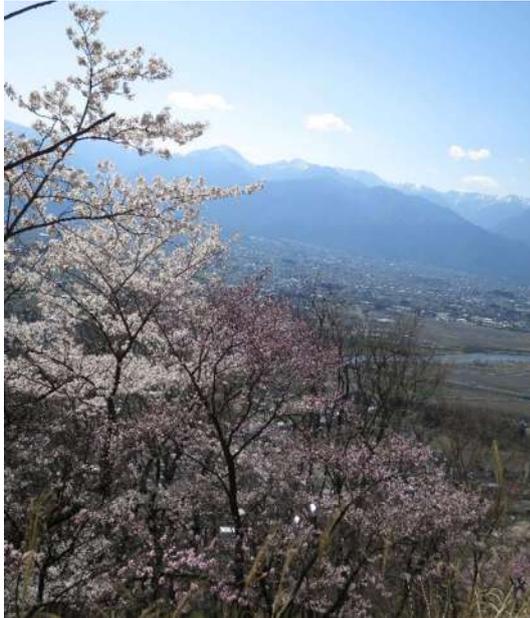
4月。光城山の桜は、その麓から咲き始めます。日を追うごとに、登山道沿いを山頂に向かって徐々に開花していく様子は、龍が空に昇っていく様子に例えられ、通称「昇り龍」として毎年多くの方に親しまれています。

『かつての光城山』

光城山は、以前は樹木のほとんどない山でした。当時、砂防目的もあり、地元の方々によりさまざまな樹木が植樹され、時間をかけて現在の姿に移り変わっていきました。当時は周辺にいくつか集落も存在しており、薪炭用材の採取など、地元住民の生活にとって欠かせない身近な里山でした。

『地域住民により守り育てられてきた桜』

光城山の桜は、大正天皇の即位を記念して地元の青年団により植樹されたのが始まりであったと言われています。その後も地元の方々や、NPOなどにより桜



桜越しに北アルプス表銀座



桜の間から北アルプス鹿島槍・五竜岳



桜の補植（緑の網の中）鹿の食害防止柵

の植樹が進められ、維持管理されてきました。現在、私たちを楽しませてくれている桜は、桜を愛する地域住民によって守り育てられてきたのです。

『これからの光城山』

光城山は、気軽に登れることから毎日のように登山を楽しまれている方がいます。また、光城山は桜の他にも、山城としての歴史や、豊かな自然環境に恵まれています。これらの豊富で貴重な資源を持つ城山を、これからも多くの皆さんの力で後世に長く引き継いでいくことが大切です。

市民と行政の協働によるプロジェクトの推進

『老朽化の進む光城山の桜』

多くの方に愛されている光城山の桜（ソメイヨシノ）の寿命は、およそ60～70年とされています。古い木は既に樹齢が100年近くとなり、老木化により開花する桜が乏しくなってきました。また、周辺に生息する鹿などの鳥獣による食害等が確認されており、このままの状態が続けば、「昇り龍」例えられる桜の名所としての光城山を後世に残していくことが困難であると心配されていました。

『プロジェクトの設立』

以前より、早期の桜の補植が望まれていましたが、地元住民だけ、行政だけで解決できる問題ではありません。そのため、光城山の桜を後世に残していくこと、また、自然環境の保全など、光城山にかかる各種課題解決を目的に、光城山の所有者である上川手山林財産区や、地元区の皆さん、NPO、樹医などの専門講師、市職員により、「光城山1000人SAKUR プロジェクト」を平成26年4月に設立しました。プロジェクト名の「1000人」には、多くの方に関わっていただきたいという意味が込められています。

『協働により様々な課題解決に取り組む』

光城山への桜の植樹は、土壌環境や日照条件、植樹方法など困難な課題が山積していました。そこで、専門講師のアドバイスをいただきながら、具体的な植樹方法について検討しました。平成26年度試験的に3種類の桜、計60本を麓付近に植樹し、その後は比較的病害虫に強いと言われる神大曙の苗300本を山頂付近に植樹しました。その後も毎年60本程度ずつ植樹を継続すると



光城址（光城山の山頂）



槍ヶ岳（常念岳と横通岳のコルから穂先が見える）



山頂で憩う



もに、育成不良の所に補植しています。

プロジェクトでは、桜の植樹だけでなく、光城山の自然環境に関わる課題解決や、桜や地域の歴史化を活かした観光振興等の研究にも、市民と協働で取り組んでいます。それぞれ桜の植樹や自然環境保全、歴史文化の継承、事業推進などの分科会に分かれ、検討を進めています。

光城址と古峯神社のゆかり

この山頂にお城が築かれたのは遠く五百年余りの昔、戦国時代もまだ始めの頃、海野六郎幸元という武将がここに城を築いて自ら光之六郎幸元と名乗ったといわれている。この海野氏の一族は、そのころ会田、刈谷原、田沢（上の山）、塔ノ原にそれぞれ城を築き、互いにノロシ等を使って連絡しあって栄えていたので、城内の最も高いところでノロシ台のあたりに火の守り神とされる此の古峯神社が祭られてきたものであろう。やがて戦国時代の末頃、川中島の合戦が近づくと、武田信玄の先鋒によって、天文二十二年（1553）三月、刈谷原城などとともに光の城も攻め落とされて武田方に従ったということである。

（光南村古峯神社奉賛会 現地案内板より）

光城跡（仁場城址）

本郭と二の郭との間の空堀豊科町内では規模の大きな山城で、鎌倉時代にこの地に來住した海野氏の一族、光氏によって戦乱の激しくなった戦国時代（16世紀）に築かれたと考えられる。犀川右岸丘陵上の尾根道南端を固めており、武田氏の松本平進攻に対しても、兵を配備し籠城したとみられる。しかし、天文二十二年（1553）、刈谷城攻めに際し戦わずして落城した。その後、天正十年（1582）に松本城主となった小笠原貞慶によって修復されたと考えられる。

（安曇野市教育委員会 現地案内板より）

光城山の桜の空撮（外部リンク）

<https://www.youtube.com/watch?v=F3aoABBlSiY>

麓の登山口から山頂まで1時間の軽登山です。

（左の夜景は安曇野市観光協会 HP より掲載）

弘法山古墳（松本市）



夕陽に染まる桜＋北アルプス



アルプス展望しなのめの道方向



日暮れの北アルプス



弘法山古墳は中山丘陵の北側突端部に位置します。3世紀の終わり頃この地方を支配していた有力者の古墳だといわれています。古墳からの眺望はすばらしく眼下に現松本平、南には木曾谷の入り口、北は安曇野まで、そして背景には北アルプス連峰が一望でき、前期古墳の特徴を備えております。

昭和49年に行われた発掘調査とその後の研究により、東日本でも古い3世紀末に造られた古墳であることがわかりました。

古墳の形は方形を前後に合わせた前方後方墳で、全長は66mです。遺骸は後方部中央の竪穴式石室に埋葬され、その内部から半三角縁四獣紋鏡等の副葬品と石室の上部から壺等の土器が発見されました。貴重な古墳であることから、国の史跡指定を受けて保存整備されました。

（松本市教育委員会 現地案内板より）

弘法山古墳の桜の空撮（外部リンク）

https://www.youtube.com/watch?v=z9HghBc26_I

ここでは槍ヶ岳の穂先は常念岳の左に顔を出す